

よこはまウォーキングポイント事業の令和4年度以降の展開について

平成26年度に事業を開始した「よこはまウォーキングポイント事業」は、この度、平成30年度から令和3年度までの第2期の最終年度を迎えました。

第2期の事業実績と令和4年度以降の展開について御報告させていただきます。

1 第2期（平成30～令和3年度）の事業実績

(1) 事業効果の検証結果

ア 高齢者の運動機能維持【日本老年学的評価研究機構分析】

事業参加の高齢者は非参加者に比べ、歩行時間が1日約3.6分（約360歩）増加し、運動機能低下の程度やうつ傾向も抑制されました。

また、歩数増加の結果に、国土交通省が示している歩数あたりの医療費抑制推計額を掛け合わせると、本事業参加者の歩数増加に伴う医療費抑制推計額は年間12.6億円となります。

イ 生活習慣病予防効果【横浜市立大学・NTTグループ分析】

3年連続の事業参加者は非参加者に比べ、高血圧の新規発症者が12.3%少なくなりました。

また、本事業参加者の高血圧の新規発症抑制に伴う医療費抑制推計額は少なくとも年間9千万円となります。

(2) 参加登録者数等

ア 参加登録者数（令和3年3月末現在）

348,886人

（歩数計312,670人、アプリ66,246人（歩数計重複参加者（30,030人）含む））

イ 登録事業所数（令和3年3月末現在）

1,102事業所（参加者数46,940人）

2 令和4年度以降の事業展開

生活習慣病予防や高齢者の運動機能への効果等、事業効果が確認されました。

また、ウォーキングは密を避けて1人や少人数でも行えるため、コロナ禍の健康づくりとしても有効です。

そのため、令和4年度以降も第3期（4年間）として継続する方向で進めます。

3 第3期の方向性

(1) 歩数計からアプリへの移行促進

アプリは歩数計に比べて機能が充実していることに加え、歩数計のように耐用年数による再購入の必要がないことから、継続しやすい仕組みです。

そのため、ウェアラブル端末（スマートウォッチ）との歩数連携等の機能追加、電子ポイント付与等、アプリのさらなる魅力向上を図りつつ、歩数計参加者のアプリへの移行を促進します。

(2) 新規参加促進

ア アプリ

働き世代・子育て世代、スマートフォンを持っている高齢者について、アプリの新規参加を促進します。

イ 歩数計

スマートフォンを使用していない高齢者等に向け、配付を継続します。

ウ 参加規模

アプリと歩数計の参加者合計で、第3期中に40万人規模を想定しています。

(3) 継続支援

第2期に引き続き、歩いて見つけたおすすめスポットや店舗を共有できる「写真投稿」、「フォトコンテスト」など、アプリ機能の活用等による「歩く機会の創出」、「街の魅力の再発見（横浜への愛着感の向上）」、「経済・地域活性化」につながる取組を実施します。

(4) 事業効果の検証

事業効果が確認できたため、さらに継続して参加した場合の効果等、引き続き事業検証を行っていきます。

4 第3期に向けた準備

(1) よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会の開催

令和3年6～7月に条例設置の「よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会」を開催し、第3期の目的、共同事業者等について審議のうえ決定し、第3期に向けた準備を進めます。

(2) 今後のスケジュール（予定）

令和3年6～7月	「よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会」の開催
令和3年9月	第3回市会定例会常任委員会へ報告
令和3年10月	第3期に向けた準備開始
令和4年4月	第3期スタート